

## 課題NO.3

# ほ場整備を契機とした営農体制の整備

活動期間：令和6年度～令和7年度

対象者：株式会社大輪

チーム員：青沼達也、大槻恵太、進藤友恵



# 1 課題の背景・ねらい

## (1) 背景

- 大和町吉田金取北地区は、令和3年に農地中間管理機構関連農地整備事業予定地区（受益面積42.6ha）に採択され、担い手組織に地区内全ての農地を集積予定。
- 新たな担い手組織として、令和5年5月に**（株）大輪が設立**。同法人を核とした持続可能な営農体制づくりに向けて、**急激な農地集積への対応**や**法人経営の安定化**が課題。

### 【（株）大輪 R7経営概要】

経営面積：水稻37ha、大豆10ha（合計47ha） ※R5：13ha、R6：36ha  
園芸品目1.2ha（ピーマン、ねぎ、ばれいしょ、さつまいも、ブロッコリー、白菜）  
構成員等：役員1名、正社員1名、パート社員3名

## (2) ねらい

- （株）大輪を核とする地域営農体制の確立に向け、ほ場環境に適した農地利用が図られる。
- 収益性の高い農作物を安定して生産できるようになり、今後必要となる設備投資への見通しが立つ。
- （株）大輪の経営方針が作成され、従業員を雇用できる体制が整う。

### 【定量的数値目標】

地区営農計画※ R5（現況）：0 → R6：0 → R7：1

※（株）大輪による営農計画の作成、地域への説明、地域の了解が得られたもの

# 2 活動内容

## (1) 地域営農体制の確立と農地の効率的利用支援

令和7年5月発行 No.1

金取北農地整備事業推進協議会だより

発行：金取北農地整備事業推進協議会・仙台地方振興事務所

**事業の進捗状況等をお知らせしていきます！**

当地区では、(株)大軸(代表:堀籠昭幸さん)を担い手として、令和7年から令和11年の概ね5か年、農地整備事業を実施してまいります。

今年度より換地作業等が始まり、事業が進んでいく予定となりますので、農地整備に関する進捗状況や協議会の活動、担い手の営農状況などを発信してまいります。

**農地整備事業推進協議会の総会を開催しました。**

令和7年4月12日(土)に金取北公民館で令和7年度総会を開催しました。当日は大和町農林振興課や大和町土地改良区より職員の出席をいただき、事業の採択状況や今後の事務手続き等について、情報提供いただきました。

また、今期の大和町土地改良区の員外女性理事として、長窪地区の伊藤浩美さんが就任されたことを紹介いたしました。

～推進協議会より～

当地区の農地整備事業については、4月1日付で国からの正式採択の通知が、大和町へ連絡がありました。今年から換地作業が始まり、事業の取組が始まる予定となります。これまでに準備を進めてきた農地整備事業が本格的にスタートしますので、御協力よろしくお願いたします。



- 営農情報誌を発行(2か月に1回、計6回)
- 法人運営への地域の理解醸成

- 営農管理システムの活用を指導
- ほ場特性を生かした水稻乾田直播の導入と大豆の団地化

- 作柄の振り返りと次期営農計画(生産計画、作業体系)の検討支援



## 2 活動内容 (2) 高収益作物の安定生産支援



青枯病を発症したピーマン

ハウス	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
道路側 3棟				← 水稲育苗 →	← ピーマン →								
家側 2棟				← スナップエンドウ →				← オクラ →			← 土壌 換気 →		

ハウス	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
道路側 3棟				← 水稲育苗 →	← オクラ・スナップエンドウ →				← 土壌 換気 →			
家側 2棟				← ピーマン →							← 土壌 換気 →	

施設園芸における輪作体系の指導

- 園芸6品目について、土壌診断等の技術的支援
- ピーマンの連作障害（青枯病）が発生したため、土壌消毒や輪作体系について指導
- 今年度の品目別収支と作業体系を振り返り、次年度の生産計画の検討を支援

## 2 活動内容 (3) 経営方針の作成、雇用体制の整備



経営理念作成に向けたワーキング



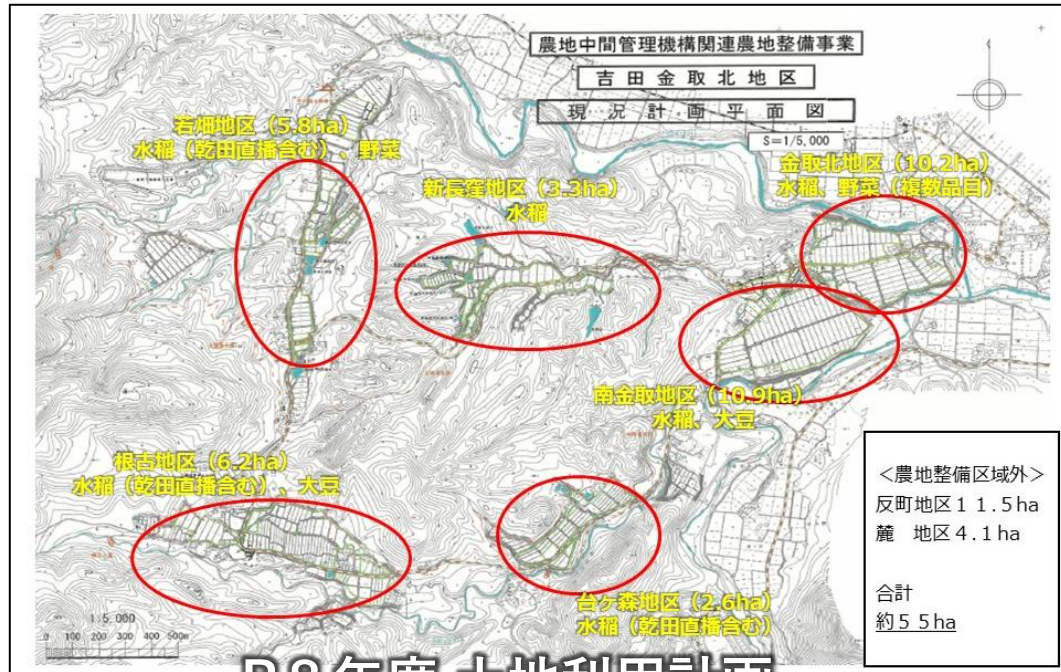
資金繰りに関する勉強会

- 決算（第2期）を踏まえ、経営の安全性、収益性、活動性、採算性を分析・説明
- 今後の経営判断基準となる経営理念の作成を指導
- 専門家派遣を活用し、資金繰り手法の勉強会と、就業規則作成を指導



### 3 これまでの活動成果 (1) 地域営農体制の確立と農地の効率的利用支援

#### 【地域営農体制の確立】



R8年度土地利用計画

#### 【農地の効率的利用支援】



- 地域住民の法人運営に対する理解が深まった。
- 営農情報誌を活用し、法人の営農計画を地域と共有することで、**法人と地域農業者が協力した営農体制の構築**が可能となった。

- 蓄積された**ほ場のデータ (特性)**を活用した**土地利用計画の作成手法**を習得した。
- 乾田直播栽培等についての知見が深まった。

### 3 これまでの活動成果

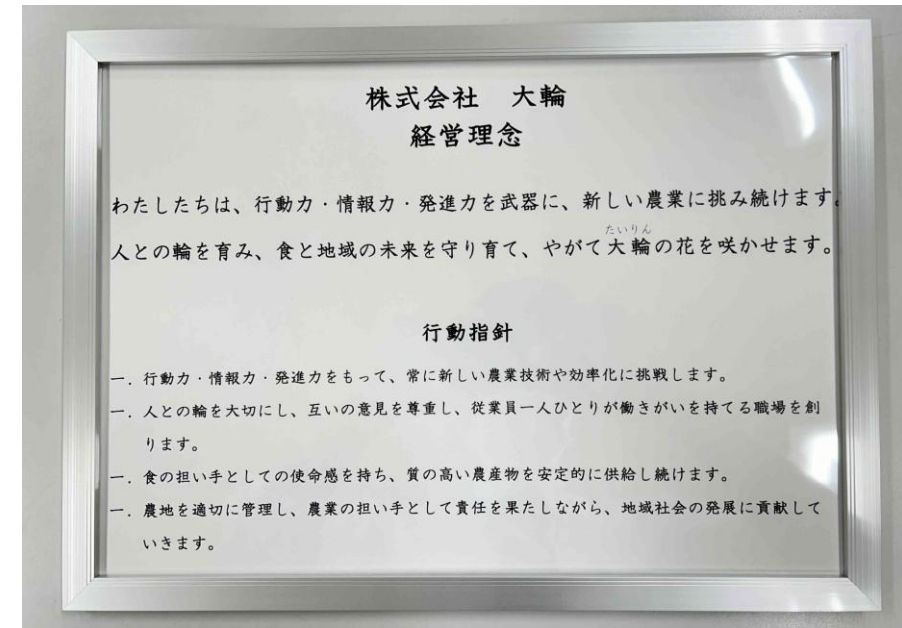
#### (2) 高収益作物の安定生産支援

品目	面積 (ha)	収量 (kg/10a)	売上高 (円)	資材費等 (円)	固定費 (円)	農業所得 (円)
1 水稲	41.6	390	54,025,920	22,017,632	26,085,179	5,923,109
2 大豆	10.0	100	2,000,000	2,039,800	4,356,789	1,603,411
3 ねぎ	0.83	2,000	6,142,000	2,388,616	239,308	3,628,076
4 ピーマン	0.05	3,500	840,000	756,992	7,475	75,533
5 スナップエンドウ	0.04	486	339,189	130,474	7,475	201,240
6 オクラ	0.03	600	209,736	83,719	7,475	118,542
7 ばれいしょ	0.11	—	220,000	98,440	120,240	1,320
8 さつまいも	0.21	—	200,000	139,030	49,171	11,799
9 白菜	0.11	—	640,000	254,815	7,475	377,710
10 ブロッコリー	0.20	—	265,000	255,968	7,475	1,557
合計	53.18		64,881,845			11,942,297

#### R8年度生産計画（目標）

- 連作障害対策の知見が深まり、次年度以降の**継続的な栽培に向けた知識が習得**した。
- 品目別の目標収量、目標売上高等を明確化し、より具体的な生産計画を作成した。
- 生産計画を具体化することで、**設備投資の検討**に繋がった。

#### (3) 経営方針の作成、雇用体制の整備

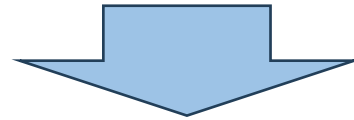


- **経営理念と行動指針を作成**し、社の判断基準が明確化することで、組織の連帯感が強まった。
- 資金繰り手法の基礎を習得し、**設備投資計画の立案方法について理解が深まった**。
- 就業規則を整備し、R8年からの**正社員雇用にも対応できる体制が整った**。

# 4 今後の支援

## <残る課題等>

- 令和9年度からほ場整備（面工事）が開始予定であり、工事期間中は耕作面積や収入の減少が予想される。
- 耕作面積や米価の変動に左右されないよう、園芸品目を強化し、経営的な体力を付けていく必要がある。
- 新たに作成した資金繰り計画や就業規則などについて、運用しながら適宜見直していく必要がある。



- **園芸品目**で持続的かつ安定的に収益を上げられるよう、栽培技術等について引き続き支援。（目標は園芸売上高 1,000万円）
- **組織運営面**において重点的にフォローアップを実施。